

交通関連企業景気動向調査（平成 16 年 9 月 1 日時点）結果

目 的：交通関連企業における景況感、経営動向を把握する。

対象業種：貨物、旅客、その他全 16 業種

事業者数：調査対象 494 社、有効回答 374 社（有効回答率 75.7%）
（原則として資本金 1 億円以上の法人企業）

調査時点：平成 16 年 9 月 1 日現在

概 要

～景況感、貨物・旅客ともに改善、貨物はプラスに転じる～

〔最近の景況感 D I = -16.3、16 年度下半期の景況感改善見通し D I = -4.0〕

- ・ 景況感 D I は、平成 14 年 9 月調査から上昇が続いており、平成 16 年 3 月調査で 27.4 ポイント、今回の調査で 17.7 ポイント上昇（D I = -61.4 → -34.0、-34.0 → -16.3）。
- ・ 貨物・旅客とも改善（D I = -13.6 → 8.1、-52.2 → -31.0）。貨物は平成 4 年 9 月に調査を開始して以来初めてのプラス。一方、旅客は改善したものの引き続きマイナスにとどまっている。
- ・ 業種別にみると、16 業種中 4 業種で下降、1 業種は変わらずとなっているものの、11 業種で D I が上昇しており、総じて上昇傾向にある。貨物部門では倉庫、港湾運送及びトラックが、旅客部門ではハイヤー・タクシー及び旅行業が、それぞれ大きく上昇している。
- ・ 16 年度下半期の景況感改善見通し D I は -4.0 となっており、今後は業況が悪化するとみている事業者が多い。貨物は今後改善するとみる事業者が多い（D I = 12.1）のに対し、旅客は今後悪化するとみる事業者が多く（D I = -12.5）、今後の見通しについても貨物と旅客に差がみられる。

（注）D I = 「良い（改善）、人手不足、増加」と回答した事業者の割合

－ 「悪い（悪化）、人手過剰、減少」と回答した事業者の割合

1. 調査結果

(1) 景況感

① 調査時点（平成16年9月1日）の景況感DI=-16.3

交通関連業界の景況感は、DIでみると、平成16年3月調査（以下前回調査）に比べマイナス幅が縮小している（DI=-34.0→-16.3）。しかしながら、有効回答事業者（以下「事業者」という。）数でみると、「良い」と感じている事業者は26.2%に対し、42.5%の事業者が「悪い」と感じており、「悪い」とみる事業者の方が多い。

貨物部門では、外航海運及び内航海運が下降したものの、倉庫、港湾運送及びトラックが大きく上昇、フェリーも上昇し、総じて上昇傾向となった結果、プラス・マイナスとも3業種となり、DIでは平成4年に調査を開始して以来初めてのプラスとなった。

旅客部門では、民鉄旅客が下降したが、ハイヤー・タクシー及び旅行業が大きく改善したため、旅客部門全体としては前回と比べ改善しているものの、旅行業がマイナスからプラスに転じたほかは、いずれも前回に引き続きマイナスとなった。

最近の景況感

部門・業種		良	い	悪	い	DI	前回調査との差	前回(16.3)DI	前年(15.9)DI
全 体		26.2	42.5	-16.3	17.7	-34.0	-61.4		
	貨物部門	38.3	30.2	8.1	21.6	-13.6	-45.1		
	旅客部門	19.0	50.0	-31.0	21.2	-52.2	-78.4		
	その他	14.6	53.7	-39.0	-5.0	-34.0	-51.1		
貨物	外航海運(27)	63.0	11.1	51.9	-14.8	66.7	7.7		
	内航海運(25)	24.0	20.0	4.0	-14.8	18.8	-53.8		
	フェリー(25)	32.0	52.0	-20.0	7.6	-27.6	-63.3		
	倉庫(22)	40.9	45.5	-4.5	57.5	-62.1	-50.0		
	港湾運送(23)	39.1	21.7	17.4	43.5	-26.1	-42.4		
	トラック(27)	29.6	33.3	-3.7	44.3	-48.0	-60.0		
旅客	旅客船(22)	22.7	59.1	-36.4	4.5	-40.9	-80.8		
	JR(6)	16.7	33.3	-16.7	0.0	-16.7	-50.0		
	民鉄旅客(30)	10.0	53.3	-43.3	-12.3	-31.0	-40.6		
	バス(29)	6.9	75.9	-69.0	6.8	-75.8	-94.1		
	ハイヤー・タクシー(26)	3.8	53.8	-50.0	46.0	-96.0	-85.7		
	航空運送業(27)	25.9	33.3	-7.4	22.2	-29.6	-80.0		
	登録ホテル(18)	27.8	55.6	-27.8	26.8	-54.5	-84.0		
旅行業(26)	42.3	23.1	19.2	58.1	-38.9	-95.2			
その他	造船(16)	12.5	56.3	-43.8	-43.8	0.0	-28.0		
	自動車整備(25)	16.0	52.0	-36.0	25.5	-61.5	-77.3		

(注) 1. ()内は有効回答事業者数

2. 前回(16.3)DIは、16年3月調査時点での「最近の景況感」

前年(15.9)DIは、15年9月調査時点での「最近の景況感」

② 16年度下半期の景況感改善見通しDI=-4.0

16年度下半期の景況感改善見通しDIは、-4.0となった。

貨物部門では、フェリーがマイナスとなったほかはいずれの業種もプラスとなっている。その結果、①で述べたとおり景況感DIがプラスに転じただけでなく、景況感改善見通しDIもプラスに転じ、今後も業況は改善が続くとみている事業者が多い。

旅客部門では、マイナス5業種、ゼロ1業種、プラス2業種と、マイナス及びゼロが多数を占めている。特に、JR及びバスでは「良くなる」とみている事業者は1社もない。その結果、①で述べたとおり景況感DIはマイナスとなっているが、景況感改善見通しDIもマイナスとなっており、今後、業況は悪化するとみている事業者が多い。

16年度下半期の景況感改善見通し

部門・業種		良くなる	悪くなる	DI
全 体		24.3	28.3	-4.0
	貨 物 部 門	30.2	18.1	12.1
	旅 客 部 門	21.7	34.2	-12.5
	そ の 他	14.6	39.0	-24.4
貨 物	外航海運(27)	29.6	11.1	18.5
	内航海運(25)	32.0	12.0	20.0
	フェリー(25)	16.0	52.0	-36.0
	倉庫(22)	45.5	13.6	31.8
	港湾運送(23)	21.7	17.4	4.3
	トラック(27)	37.0	3.7	33.3
旅 客	旅客船(22)	13.6	50.0	-36.4
	JR(6)	0.0	0.0	0.0
	民鉄旅客(30)	10.0	36.7	-26.7
	バス(29)	0.0	65.5	-65.5
	ハイヤー・タクシー(26)	15.4	34.6	-19.2
	航空運送業(27)	33.3	3.7	29.6
	登録ホテル(18)	33.3	44.4	-11.1
	旅行業(26)	57.7	15.4	42.3
その他	造船(16)	25.0	31.3	-6.3
	自動車整備(25)	8.0	44.0	-36.0

(2) 売上高

① 16年度上半期の15年度下半期対比売上高DI=-4.3(注1)

16年度上半期の15年度下半期に対する売上高は、前回調査からDIで8.0ポイント上昇し、-4.3となった。

貨物部門では、内航海運がプラスからマイナスに、フェリー及び倉庫がマイナスからそれぞれゼロ及びプラスに転じたほかは、前回に引き続きプラスとなっている。

旅客部門では、JR及び旅行業がマイナスからプラスに転じ、航空運送業がプラスからゼロとなったほかは、いずれも前回に引き続きマイナスとなっている。

16年度上半期の売上高改善実績

部門・業種		改善	悪化	DI	前回調査との差	前回(16.3)DI	前年(15.9)DI
全体		35.0	39.3	-4.3	8.0	-12.3	-33.9
	貨物部門	45.0	28.2	16.8	10.6	6.2	-15.9
	旅客部門	30.4	45.1	-14.7	11.2	-25.8	-52.0
	その他	19.5	53.7	-34.1	-10.7	-23.4	-25.5
貨物	外航海運(27)	59.3	11.1	48.1	10.6	37.5	19.2
	内航海運(25)	28.0	36.0	-8.0	-17.4	9.4	-19.2
	フェリー(25)	40.0	40.0	0.0	27.6	-27.6	-50.0
	倉庫(22)	50.0	27.3	22.7	29.6	-6.9	-18.8
	港湾運送(23)	47.8	30.4	17.4	8.7	8.7	6.1
	トラック(27)	44.4	25.9	18.5	-5.5	24.0	-28.6
旅客	旅客船(22)	22.7	63.6	-40.9	-31.8	-9.1	-42.3
	JR(6)	33.3	16.7	16.7	33.3	-16.7	-50.0
	民鉄旅客(30)	23.3	40.0	-16.7	-9.8	-6.9	-12.5
	バス(29)	6.9	69.0	-62.1	-10.6	-51.5	-85.3
	ハイヤー・タクシー(26)	15.4	46.2	-30.8	-2.8	-28.0	-34.3
	航空運送業(27)	40.7	40.7	0.0	-18.5	18.5	-40.0
	登録ホテル(18)	27.8	61.1	-33.3	16.7	-50.0	-72.0
旅行業(26)	76.9	7.7	69.2	135.9	-66.7	-90.5	
その他	造船(16)	12.5	50.0	-37.5	-28.0	-9.5	0.0
	自動車整備(25)	24.0	56.0	-32.0	2.6	-34.6	-54.5

(注) 1. 季節変動要因を除いた実勢ベース

2. 前回(16.3)DIは、16年3月調査時点での「15年度売上高が14年度に対して改善(悪化)するかの見方」

3. 前年(15.9)DIは、15年9月調査時点での「15年度上半期売上高が14年度に対して改善(悪化)するかの見方」

② 16年度下半期の16年度上半期対売上高見通しDI=2.7(注)

16年度下半期の16年度上半期に対する売上高見通しDIは2.7となった。

貨物部門では、フェリーがマイナスとなったほかは、いずれもゼロ又はプラスとなっている。

旅客部門では、マイナス3業種、ゼロ2業種、プラス3業種となっている。

16年度下半期の売上高改善見通し

部門・業種		改善	悪化	DI
全体		31.6	28.9	2.7
	貨物部門	36.2	22.8	13.4
	旅客部門	28.8	33.7	-4.9
	その他	26.8	29.3	-2.4
貨物	外航海運(27)	25.9	25.9	0.0
	内航海運(25)	32.0	32.0	0.0
	フェリー(25)	8.0	56.0	-48.0
	倉庫(22)	63.6	4.5	59.1
	港湾運送(23)	30.4	13.0	17.4
	トラック(27)	59.3	3.7	55.6
旅客	旅客船(22)	18.2	40.9	-22.7
	JR(6)	0.0	0.0	0.0
	民鉄旅客(30)	20.0	43.3	-23.3
	バス(29)	10.3	62.1	-51.7
	ハイヤー・タクシー(26)	30.8	30.8	0.0
	航空運送業(27)	37.0	11.1	25.9
	登録ホテル(18)	50.0	33.3	16.7
	旅行業(26)	50.0	19.2	30.8
その他	造船(16)	31.3	12.5	18.8
	自動車整備(25)	24.0	40.0	-16.0

(注) 季節変動要因を除いた実勢ベース

(3) 経常収支

① 16年度上半期の15年度下半期対比経常収支DI=0.8(注1)

16年度上半期の15年度下半期に対する経常収支DIは0.8となった。

貨物部門では、プラス3業種、ゼロ1業種、マイナス2業種となった。

旅客部門では、プラス、マイナスともに4業種となった。なお、バスについては「改善する」としている事業者は1割未満にとどまっている。

16年度上半期の経常収支改善実績

部門・業種		改善	悪化	DI
全 体		39.0	38.2	0.8
	貨物部門	40.9	32.9	8.1
	旅客部門	38.0	41.8	-3.8
	その他	36.6	41.5	-4.9
貨物	外航海運(27)	55.6	22.2	33.3
	内航海運(25)	36.0	36.0	0.0
	フェリー(25)	44.0	28.0	16.0
	倉庫(22)	36.4	40.9	-4.5
	港湾運送(23)	30.4	34.8	-4.3
	トラック(27)	40.7	37.0	3.7
旅客	旅客船(22)	36.4	59.1	-22.7
	JR(6)	66.7	0.0	66.7
	民鉄旅客(30)	50.0	36.7	13.3
	バス(29)	6.9	62.1	-55.2
	ハイヤー・タクシー(26)	23.1	42.3	-19.2
	航空運送業(27)	44.4	40.7	3.7
	登録ホテル(18)	22.2	50.0	-27.8
	旅行業(26)	73.1	15.4	57.7
その他	造船(16)	50.0	31.3	18.8
	自動車整備(25)	28.0	48.0	-20.0

(注) 1. 季節変動要因を除いた実勢ベース

2. 経常収支DI調査を今回調査から実施(年2回)することとした。

- ② 16年度下半期の16年度上半期対比経常収支見通しDI=-3.8(注1)
 16年度下半期の16年度上半期に対する経常収支見通しDIは-3.8となった。
貨物部門では、外航海運及びフェリーがマイナスとなったほかは、いずれもプラスとなっている。
旅客部門では、マイナス5業種、プラス3業種となった。

16年度下半期の経常収支改善見通し

部門・業種		改善	悪化	DI
全体		30.7	34.5	-3.8
	貨物部門	37.6	26.8	10.7
	旅客部門	26.1	38.6	-12.5
	その他	26.8	43.9	-17.1
貨物	外航海運(27)	25.9	33.3	-7.4
	内航海運(25)	44.0	16.0	28.0
	フェリー(25)	4.0	60.0	-56.0
	倉庫(22)	68.2	18.2	50.0
	港湾運送(23)	30.4	17.4	13.0
	トラック(27)	55.6	14.8	40.7
旅客	旅客船(22)	22.7	40.9	-18.2
	JR(6)	0.0	33.3	-33.3
	民鉄旅客(30)	16.7	53.3	-36.7
	バス(29)	13.8	58.6	-44.8
	ハイヤー・タクシー(26)	15.4	42.3	-26.9
	航空運送業(27)	33.3	25.9	7.4
	登録ホテル(18)	44.4	22.2	22.2
	旅行業(26)	50.0	19.2	30.8
その他	造船(16)	37.5	37.5	0.0
	自動車整備(25)	20.0	48.0	-28.0

- (注) 1. 季節変動要因を除いた実勢ベース
 2. 従来、経常収支見通しDI調査は年1回(3月)実施していたが、今回調査から年2回実施することとした。

(4) 雇用状況

人手不足感DI = 20.1

人手不足感は、前回調査からDIで1.4ポイント下降した。

貨物部門、旅客部門とも、人手不足と感じている業種が多い。業種別では、ハイヤー・タクシー及び旅行業では人手不足と感じている事業者が半数以上となっている。

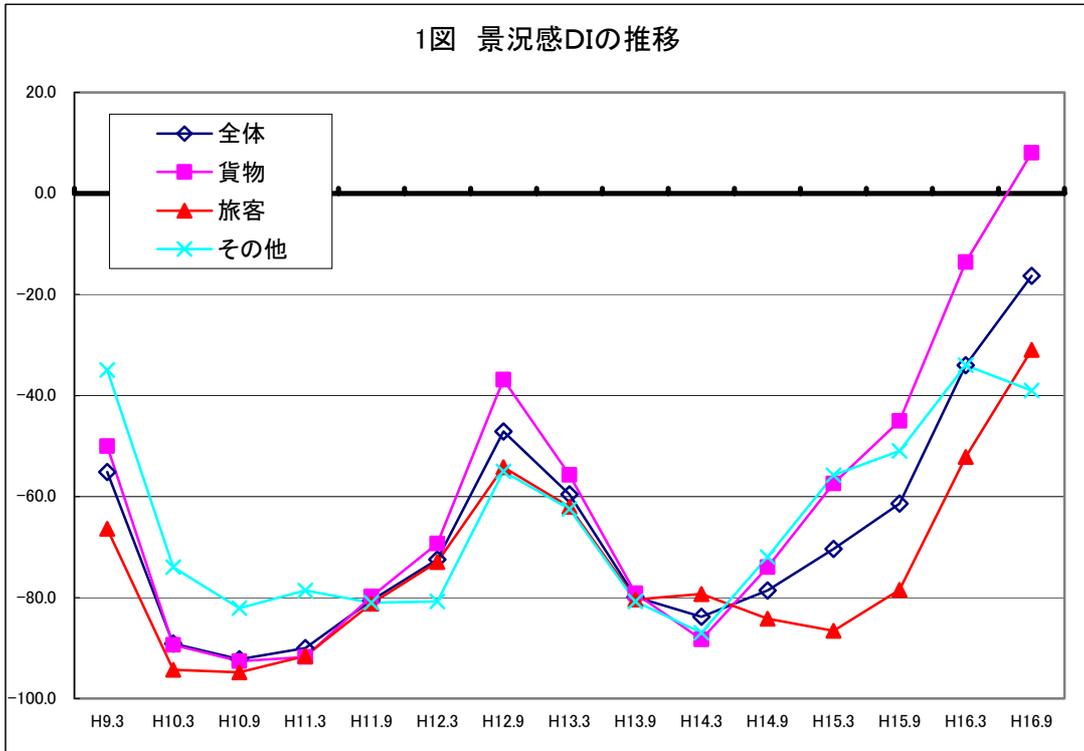
人手不足感

部門・業種		不足	過剰	DI	前回調査との差	前回(16.3)DI	前年(15.9)DI
全 体		32.9	12.8	20.1	-1.4	21.5	14.1
	貨物部門	28.2	10.7	17.4	3.3	14.2	5.5
	旅客部門	41.3	14.1	27.2	-7.4	34.6	26.5
	その他	12.2	14.6	-2.4	1.8	-4.3	-6.4
貨 物	外航海運(27)	44.4	7.4	37.0	3.7	33.3	19.2
	内航海運(25)	32.0	4.0	28.0	3.0	25.0	-15.4
	フェリー(25)	4.0	16.0	-12.0	-8.6	-3.4	13.3
	倉庫(22)	27.3	18.2	9.1	5.6	3.4	0.0
	港湾運送(23)	26.1	8.7	17.4	4.3	13.0	15.2
	トラック(27)	33.3	11.1	22.2	6.2	16.0	0.0
旅 客	旅客船(22)	22.7	27.3	-4.5	-45.5	40.9	19.2
	JR(6)	0.0	33.3	-33.3	-16.7	-16.7	-33.3
	民鉄旅客(30)	16.7	30.0	-13.3	-3.0	-10.3	-15.6
	バス(29)	41.4	3.4	37.9	-16.6	54.5	50.0
	ハイヤー・タクシー(26)	84.6	3.8	80.8	-7.2	88.0	82.9
	航空運送業(27)	44.4	7.4	37.0	22.2	14.8	8.0
	登録ホテル(18)	38.9	16.7	22.2	-18.7	40.9	28.0
旅行業(26)	50.0	7.7	42.3	14.5	27.8	4.8	
その他	造船(16)	18.8	18.8	0.0	-4.8	4.8	-8.0
	自動車整備(25)	8.0	12.0	-4.0	7.5	-11.5	-4.5

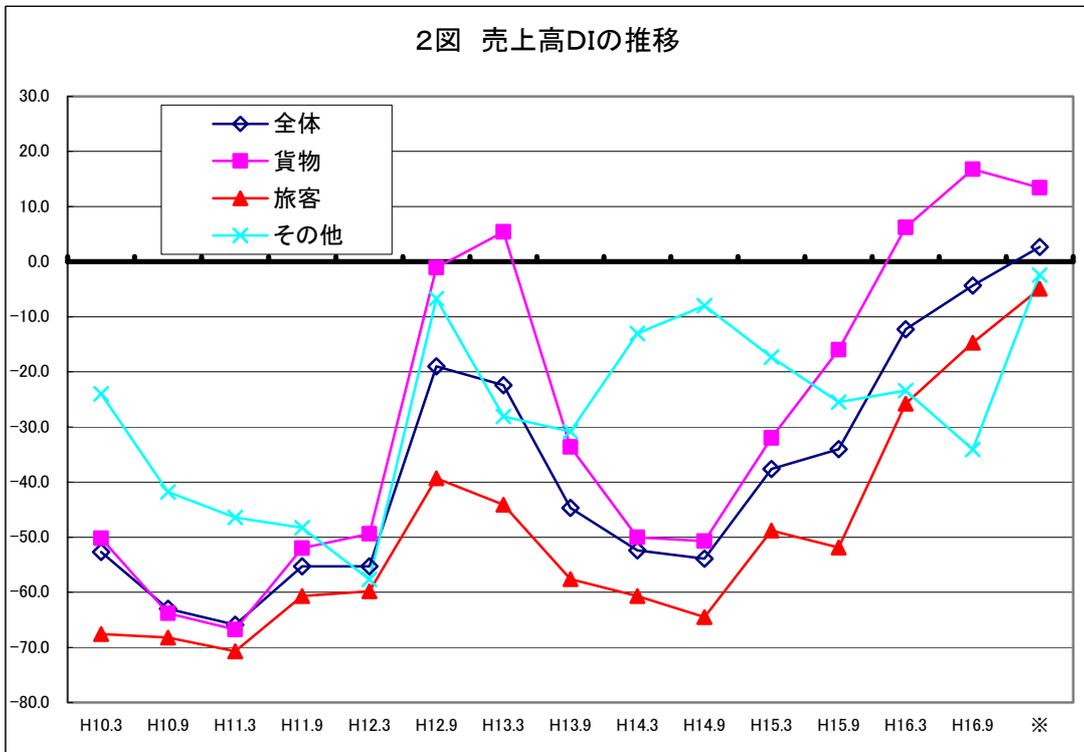
(注) 1. 前回(16.3)DIは、16年3月調査時点の「人手不足感」

2. 前年(15.9)DIは、15年9月調査時点の「人手不足感」

1図 景況感DIの推移



2図 売上高DIの推移



※印については16年下半期の売上高見通しDI

3図 人手不足感DIの推移

